

2017年11月17日 デイリー版6面 内航 港運/物流

北海道運輸局/物流支える人材、裾野を広げたい。大学生らに現場見学会。苫小牧港で30人が参加

北海道運輸局苫小牧海事事務所は4日、苫小牧港で物流現場見学会・就職説明会を開き、札幌や室蘭の大学生、学校・企業関係者約30人が参加した。大学教授による講義や苫小牧埠頭の倉庫、同港に寄港する近海郵船運航のRORO船の見学が行われた。

見学会・説明会は物流業界の人材確保を目的とする取り組みの一環として行われた。前半は地域物流を専門とする北海商科大学の相浦宣徳教授が

『モノを運ぶ』という物流の基本的なことや北海道における物流の現状などについて講義した。

その後、苫小牧港埠頭が所有する晴海地区の倉庫に移動。輸入木材を詰め込んだコンテナをリーチスタッカーでシャーシから積み降ろし、コンテナデバンニング（開梱）作業を行う一連の流れと倉庫施設内を見たあと、同社港運事業部の事務所で担当者から倉庫に保管されている寄託物の入出庫業務などの説明を受けた。

近海郵船のRORO船「ひだか」（苫小牧-敦賀航路に就航、11、185総トン）では、シャーシが積み込まれる車両甲板、ブリッジ内で普段目にすることのない航海計器や船内設備などを見学。学生は同船の2等航海士に船員の労働時間、休暇日数などを質問したほか、「船員になるための学校は。海技資格の取得方法は」など船の仕事に強い関心を抱いた様子の学生もいた。

苫小牧海事事務所では「物流分野を支える人材の裾野を広げるため、今後もこうした現場見学の機会をつくるなど、物流事業者、荷主企業、行政機関など幅広い関係者と連携して取り組んでいきたい」としている。



物流現場見学会・就職説明会に参加した大学生ら